

南八幡遺跡 7

—南八幡遺跡第12次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第906集



遺跡略号 MHM-12

調査番号 0403

2006

福岡市教育委員会

序

福岡市は古くから東アジアとの対外交渉の窓口として発展してきました。このような環境のもとに数多くの埋蔵文化財が残されており、本市におきましてはこの保護と活用に努めているところであります。

本書は共同住宅建設に伴い実施した博多区寿町に所在する南八幡遺跡の埋蔵文化財発掘調査の記録です。調査の結果、旧石器時代の石器を含め、当地域の歴史を知るうえで多くの貴重な資料を得ることができました。本書が埋蔵文化財保護のご理解と研究資料として役立てば幸いです。

最後になりましたが、調査にあたり新栄住宅株式会社をはじめ多くの方々のご理解、ご協力を賜りましたことに対し、心より感謝の意を表する次第です。

平成18年3月31日

福岡市教育委員会
教育長 植木 とみ子

例　　言

1. 本書は福岡市教育委員会が共同住宅建設に伴い、博多区寿町3丁目28番1地内において実施した南八幡遺跡第12次調査の報告書である。
2. 本書に掲載した遺構実測図の作成は中村啓太郎、高木誠、上田龍児、安藤史郎が行った。
3. 本書に掲載した遺物実測図の作成は土器を調査担当者が、石器を吉留秀敏、山口朱美が行い、一部を国際航業株式会社に委託した。
4. 本書に掲載した旧石器時代の遺物場号は調査時の取り上げ番号を使用した。このため欠番が生じている。なお、取り上げ時には地点にかかわらず、通し番号としている。
5. 本書に掲載した挿図の製図は調査担当者の他、吉留秀敏、山口朱美、林由紀子が行った。
6. 本書に掲載した遺構、遺物写真の撮影は調査担当者が行った。
7. 本調査に関わる記録、遺物等は福岡市埋蔵文化財センターに収蔵保管される予定である。
8. 本書の執筆は旧石器時代の遺物を吉留が、他を中村が行った。
9. 本書の編集は中村が行った。

調査番号	0403	遺跡略号	MHM-12
調査地地番	福岡市博多区寿町3丁目28番1		
調査面積	1253m ²	調査期間	2004年4月1日～2004年6月15日

本文目次

I.はじめに	1
1. 調査に至る経過	1
2. 調査体制	1
II.位置と環境	1
1. 位置と環境	1
III.調査の記録	3
1. 調査の概要	3
2. 弥生時代の調査	3
3. 旧石器時代の調査	5
4. まとめ	26

I. はじめに

1. 調査に至る経過

平成15年7月1日、日本製紙印刷工業株式会社より福岡市教育委員会文化財部埋蔵文化財課へ、共同住宅建設に伴う福岡市博多区寿町3丁目28-1地内における埋蔵文化財の事前審査についての依頼がなされた。これを受けた埋蔵文化財課では事業計画地が周知の埋蔵文化財包蔵地である南八幡遺跡に含まれることから、試掘調査が必要であるとの判断がなされた。平成15年7月24日、9月25日に試掘調査を行い、その結果、ピット等の遺構が検出された。その後事業者が新栄住宅株式会社へ変わり、この成果をもとに協議を重ねたが現状での設計変更は不可能であるとの判断から、調査を行うことになった。調査は平成16年4月1日より開始し、平成16年6月15日に終了した。

2. 調査体制

事業主体 新栄住宅株式会社

調査主体 福岡市教育委員会

調査総括 文化財部長 山崎純男

埋蔵文化財課長 山口謙治

調査第2係長 池崎謙二

事前審査 事前審査係長 浜石哲也

主任文化財主事 吉留秀敏

事前審査係 本田浩二郎 久住猛雄（前任）

調査庶務 文化財整備課管理係 鈴木由喜 御手洗清（前任）

調査担当 調査第2係 中村啓太郎

調査員 上田龍兒

発掘作業 小川秀雄 高木誠 宮崎雅秀 井上ヨシ子 田中フキ子 光安晶子 田端名穂子

中村幸子 花田則子 安藤史郎 阿部純子 岐村雄介 永松弘恵 野田トヨ子

花田昌代 藤澤義一

整理作業 釜崎法子 林由紀子

発掘調査にあたり新栄住宅株式会社をはじめ多くの方々のご協力をいただいた。また山崎純男、山口謙治、池崎謙二、杉山富雄、吉留秀敏、池田祐司氏や福岡旧石器文化研究会の諸氏には指導と助言を受けた。記して感謝いたします。

II. 位置と環境

1. 位置と環境 (Fig.1)

南八幡遺跡群は大野城市、春日市と接した福岡市の南端に位置し、御笠川西岸の丘陵上に立地している。この丘陵は中位段丘面に相当し、段丘疊層上に更新世後期の阿蘇カルデラを給源とする火碎流堆積物であるAso-4起源の八女粘土・鳥栖ローム層が厚く堆積する。この丘陵の上面は比較的平坦な地形となるが、丘陵内は小河川や湧水による開析が進み、いくつかの丘陵に分離している。この丘陵上に立地する遺跡を地形的に区分して北から麦野A遺跡、麦野B遺跡、麦野C遺跡、南八幡遺跡、雑餉隈遺跡と呼んでいる。

この丘陵群のなかで南八幡遺跡が立地する丘陵は中央西側に位置する。ここは丘陵西側に流れる諸岡川水系小河川と沖積低地を挟み、花崗岩基盤の須玖岡本丘陵と対峙する位置にあたる。

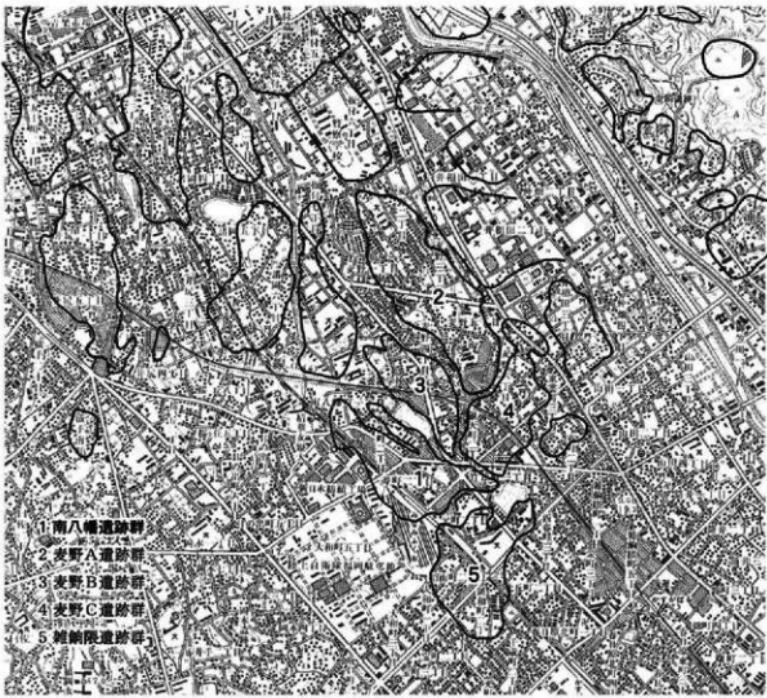


Fig. 1 周辺遺跡分布図 (1/25,000)

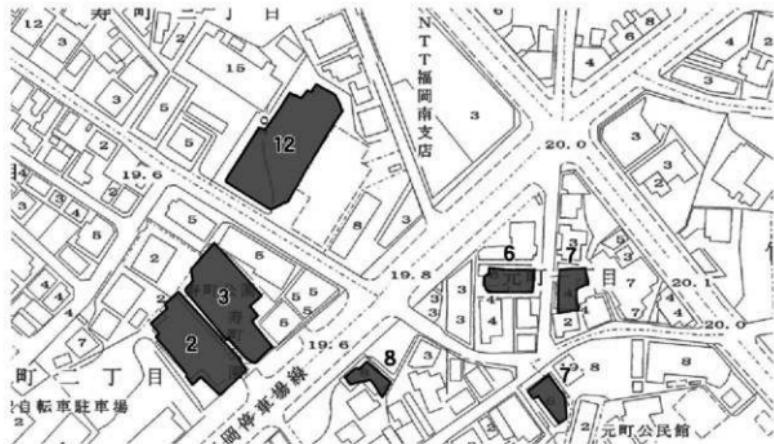


Fig. 2 南八幡遺跡調査区位置図 (1/2,000)

本遺跡ではこれまでに11次の調査が行われている(Fig. 2)。旧石器時代については1・3・9次調査で三棱尖頭器、剥片が出土している。何れも少数の遊離遺物である。今回報告する12次調査では新期ローム層中に複数の石器類の遺物集中部が安定して遺存する。ナイフ形石器や台形石器をはじめとした300点以上の遺物が出土し、市内における有数の遺跡であることを確認した。縄文時代についてはその可能性があるものとして6・7次調査で落とし穴状土坑が確認されているが、詳細な時期は確定できていない。弥生時代については5・9次調査で後期の住居、掘立柱建物等が確認されている。特に9次調査の住居からは多量のガラス玉や辰砂が出土している。古墳時代は1・2・7次調査で溝、住居、土坑等が確認されているが大きな広がりを成すものではなく、その後の古代集落とのつながりは明らかになっていない。古代に入ると様相が一変し、各調査地で掘立柱建物群を伴う集落が出現し周辺遺跡を含めほぼ全域に拡大する。前時代との隔絶から政治的要因が考えられている。その後、9世紀には集落は急速に縮小し、以降の時期は確認されなくなる。

III. 調査の記録

1. 調査の概要

第12次地点は南八幡遺跡の中央北側に位置する、土地区画に沿ったおおよそ東西約30m、南北約60mの範囲である(Fig. 3)。古い地形図によると調査区の南半部は丘陵頂部、北側は浸食谷に面する緩斜面となっている。調査は平成16年4月1日より開始した。耕土処理の関係から調査区を2分割しておこなった。先ず北東部を重機による表土掘削から行い全体の約7割を掘削したところで、人力による調査を開始した。北東部では土坑、小穴を検出したものの多くは木根等で遺構の密度はきわめて低かった。北東部の調査が終了に近づいた頃、ローム層上面でナイフ形石器(R-1)が確認された。このため予定を変更し、R-1出土地点の周辺に2mグリッドを設定し調査を行った。その結果さらに石器、剥片等を検出したため範囲を拡大し調査を続けた。その後重機で反転し、南西部の調査に着手した。南西部は北東部に比べ削平、擾乱が著しく竪穴式住居1軒を確認したのみである。そのため住居の調査と旧石器時代の調査を並行して行い6月15日にすべての調査を終了した。

2. 弥生時代の調査

SC-3(Fig. 4)調査区南西際で検出した竪穴式住居跡である。削平、擾乱が著しく、現状で平面方形を呈すると考えられるが全体の規模は不明である。住居はほぼ南北方位を向き、検出したのは深さ10cm以下で北側の角部のみである。現状で南北1.3m以上、東西1.9m以上の規模である。東壁際に幅60cm、長さ50cm、深さ20cmの土坑を有する。

出土遺物 (I)は壺形土器で壁際土坑内より出土した。復原胴部径24cmを測り、肩が張る。調整は外面が横方向のヘラミガキ、内面はハケ目を施す。弥生時代後期と考えられる。他に遺物は確認されなかつた。

小結

本調査で検出した遺構は竪穴式住居、土坑、小穴等である。土坑、小穴の多くは木根等であり、土器の出土はコンテナ1箱に満たない。削平、擾乱を考へても密度は低い。竪穴式住居は弥生時代後期と考えられるSC-3のみで、これより北東側では遺構面の遺存状況が良くなるにもかかわらず、確認できない。北東には谷が入ることからも本地点が集落の限界と考えられる。また本調査において古代の遺構は確認できなかつた。

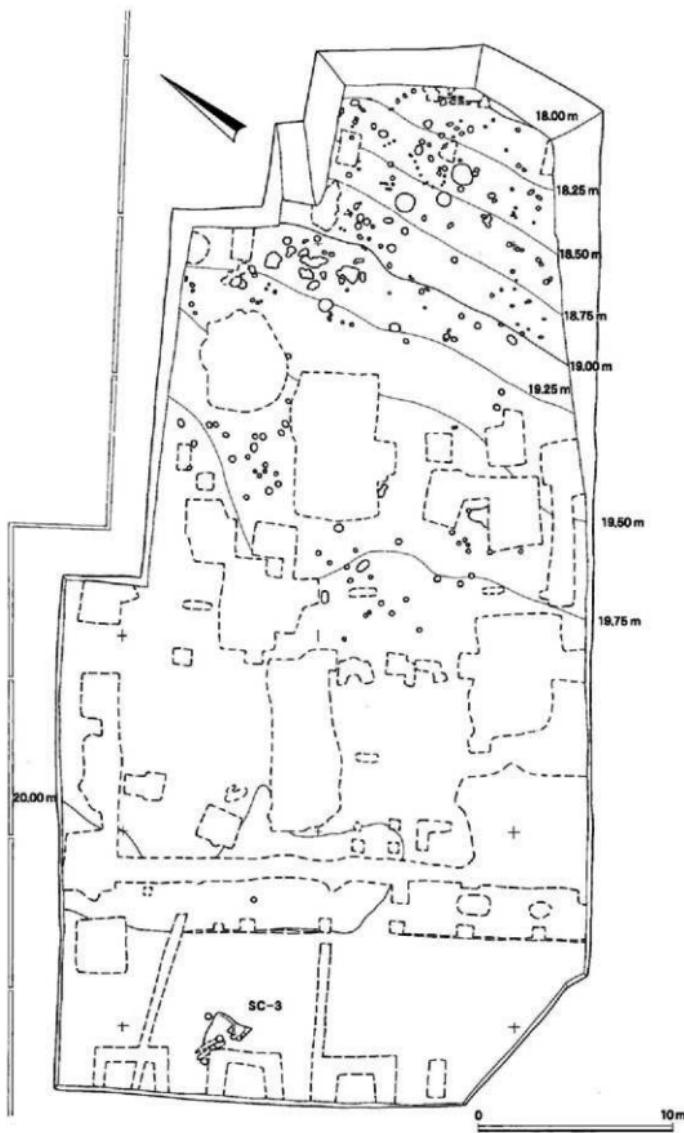


Fig. 3 第12次造構配置図 (1/250)

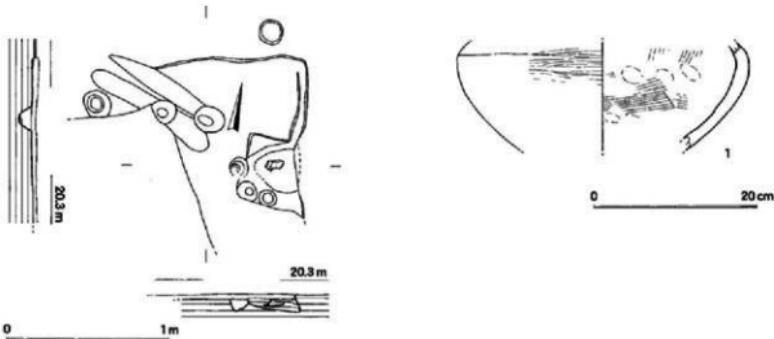


Fig. 4 SC-3 実測図及び出土遺物実測図 (1/60 • 1/3)

3. 旧石器時代の調査

調査の概要でも述べたが、調査区北東部の調査終了際にナイフ形石器 (R-1) が確認された。このため反転する予定を変更し、急速R-1周辺に2mグリッドを設定し確認調査を行った。その結果さらに数点の石器、剥片等を検出したため、調査区全体に2m単位のグリッドを拡大し設定した。グリッドの区分は調査区西南からA・B・C・D・・・、北東から1・2・3・4・・・と呼び、各グリッドはその組み合わせで呼称した (Fig.5)。R-1周辺の確認調査と並行して、調査区全体における旧石器時代資料の包含状況を把握するために4mごとに2mグリッドの確認調査を行い、遺物が出土した地点の周囲を拡張した。その結果、6地点で遺物分布が確認され、A～F群とした。遺物の取り上げは地点にかかわらず数字の前にRを付して通し番号で行っている。調査時には1～825の番号を使用したが、調査時のミスで番号が重複したもの、出土地点が不明なもの等については901から番号を付した。また調査後の確認作業で遺物と誤認したものや、炭化物や小礫などの自然遺物を取り除いた結果、多数の欠番が生じている。本報告で使用する遺物番号はこの取り上げ番号をそのまま使用した。出土遺物の概要是附図掲載の一覧表を参照されたい。調査面積は都合362.49m²で（グリッド内の擾乱含む）調査区全体に占める割合は29%と低いが、未調査地点には擾乱が多く、旧石器時代資料の有無が確認できることから実際はかなりの部分をカバーできたと考える。

層位 (Fig.6)

調査区の発掘調査以前の現況は盛土され水平であった。基本的層序は、1層、バラス、盛土、2層、黒褐色クロボク質土10YR2/2（しまりがない）、3層、褐色粘質土7.5YR4/3（粒子細かい）、4層、褐色粘質土7.5YR4/4（粘性強く1～3mmの粒子）、5層、褐色粘質土7.5YR4/6（粘性強く1～3mmの粒子）、6層、明褐色粘質土7.5YR5/6（ザラザラ）、7層、赤褐色粘質土5YR4/6（白色粒、黒色粒、明褐色粒混じる）、8層、灰白色粘質土10YR8/1（粒子細かく密）となる。周辺におけるこれまでの調査成果から7・8層が八女粘土層、6・5層が鳥栖ローム層、4・3層が新期ローム（レス）層に対応すると考えられる。旧石器時代の遺物は3層と4層中から出土した。また3層上面が弥生時代の造構検出面となる。この検出面の標高は、南西端で20.1m、北東端で19.2mを測り、北東側の谷部に向かって緩やかな斜面を呈する。谷最下部の標高18.4m、第7層の下位で湧水した。こうした地形の

| A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | K | L | M | N | O |

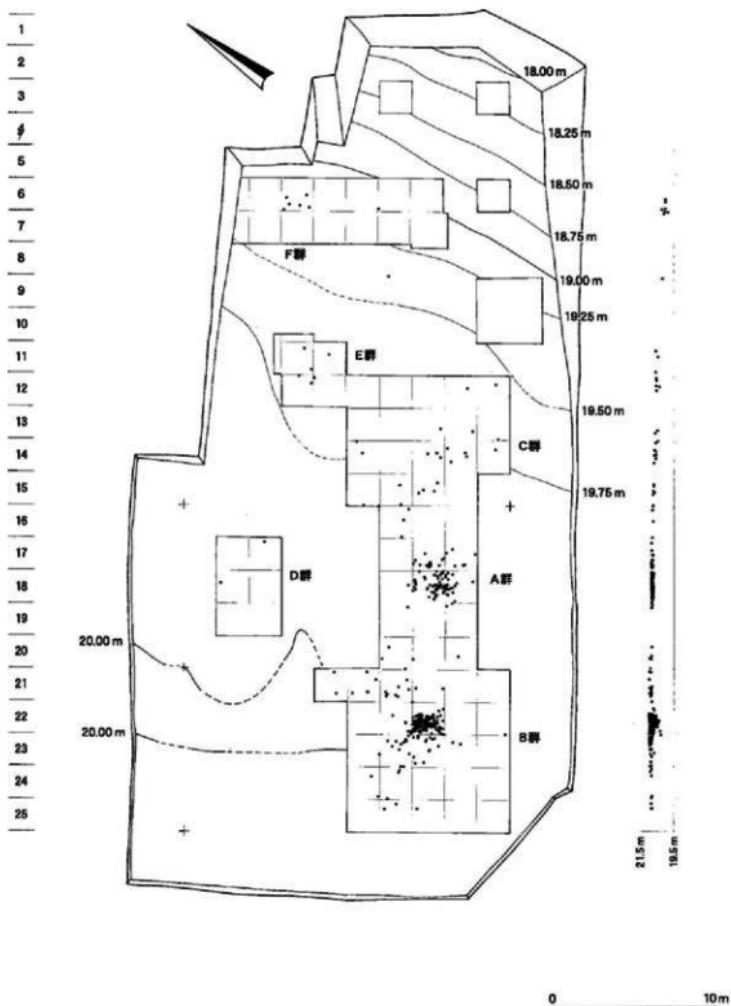


Fig. 5 旧石器時代調査区 (1/300)

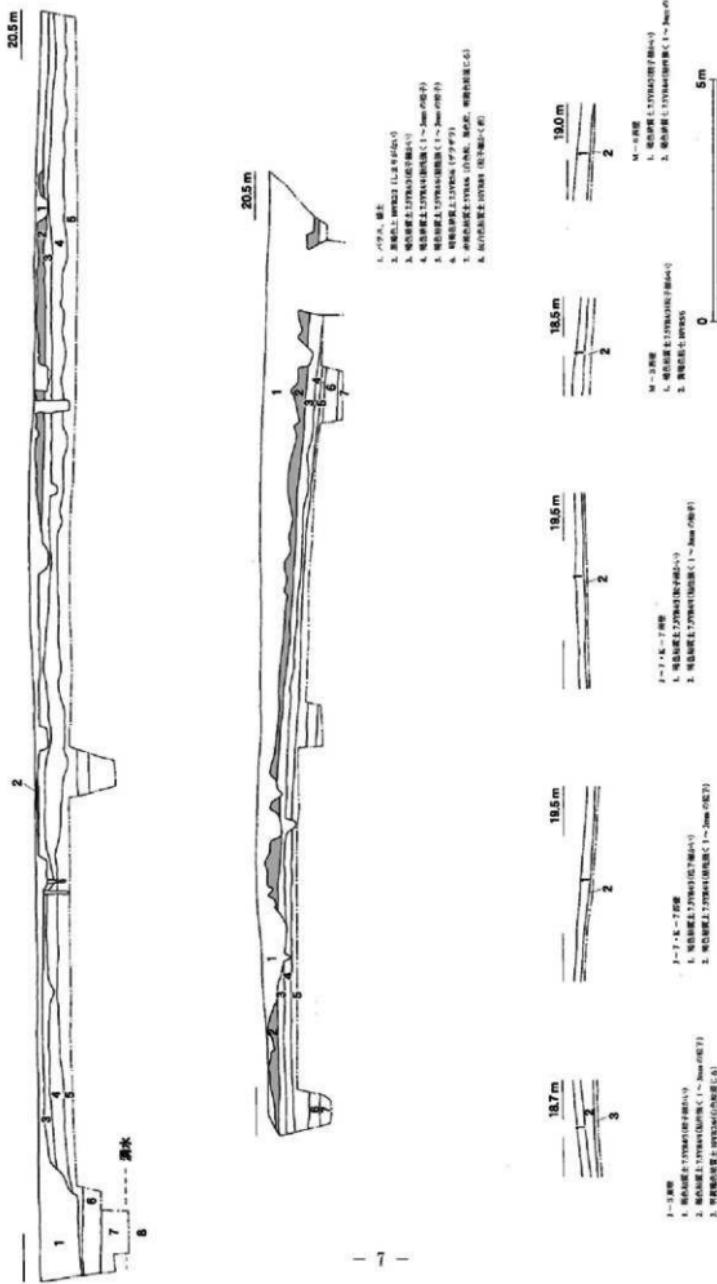


Fig. 6 調査区西壁及びリダード土壌図 (1/100)

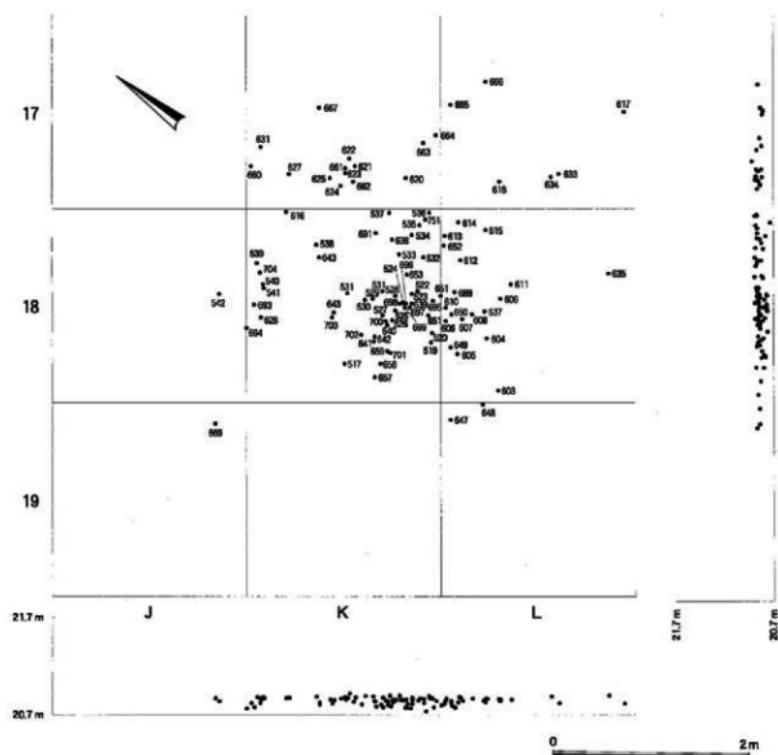


Fig. 7 A群遺物分布図 (1/50)

ため斜面となる北東部は一部に擾乱があるものの削平はあまり受けていない。逆に丘陵上となる南西部は削平が著しい。

石器の出土状況及び出土遺物

本調査において6地点の遺物集中部を検出した。検出順にA～F群とし、各群について説明する。

A群 (Fig. 7)

J-17～L-19グリッドで検出した遺物集中部である。付近はほぼ平坦地である。新期ローム層の3層から4層上部で検出され、平面分布は径約4mのおおよそ円形となる。なお分布の中央北側に比較的遺物が希薄な部分が径約1mの範囲であり、それより南側に多くの遺物が集中している。垂直分布は標高約20.85mをピークとし、標高20.7mから20.9mまでの、上下約20cmの範囲に留まる正規分布を示す。出土石器は96点でその内容は台形石器1点、使用痕有剥片4点、石核3点、剥片22点、碎片66点

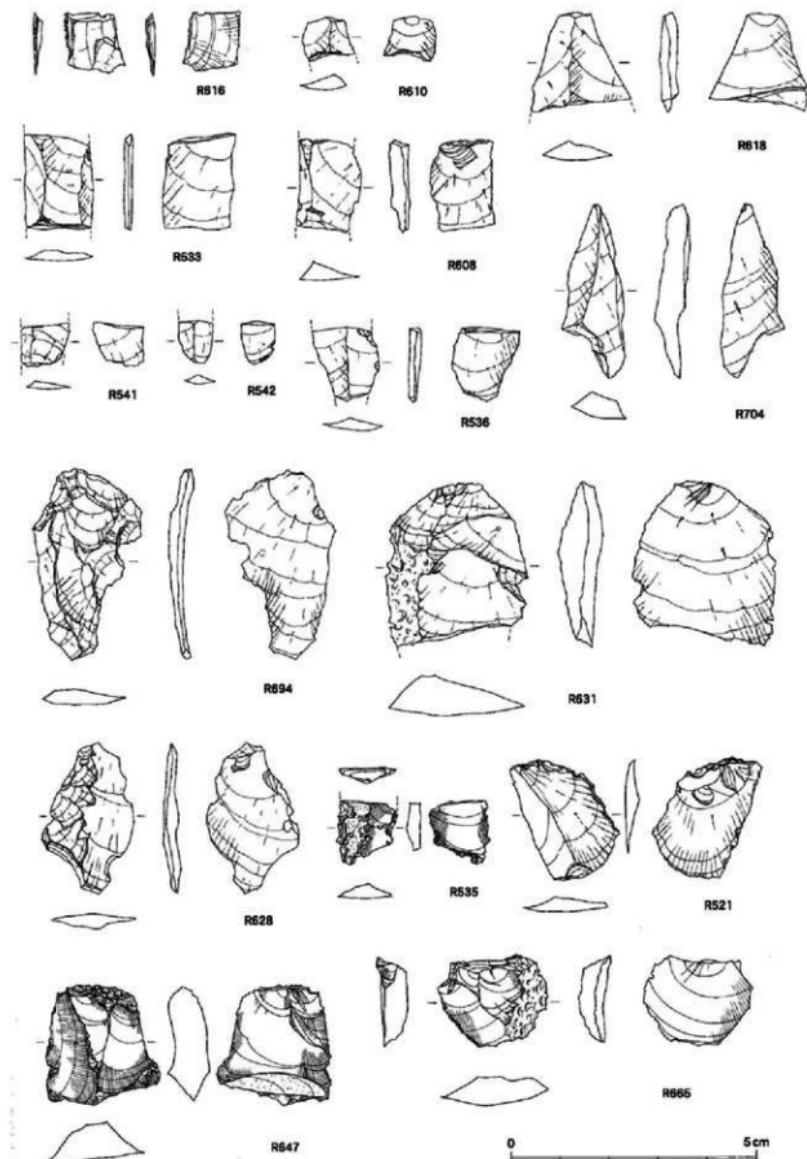


Fig. 8 A群出土石器 1 (1/1)

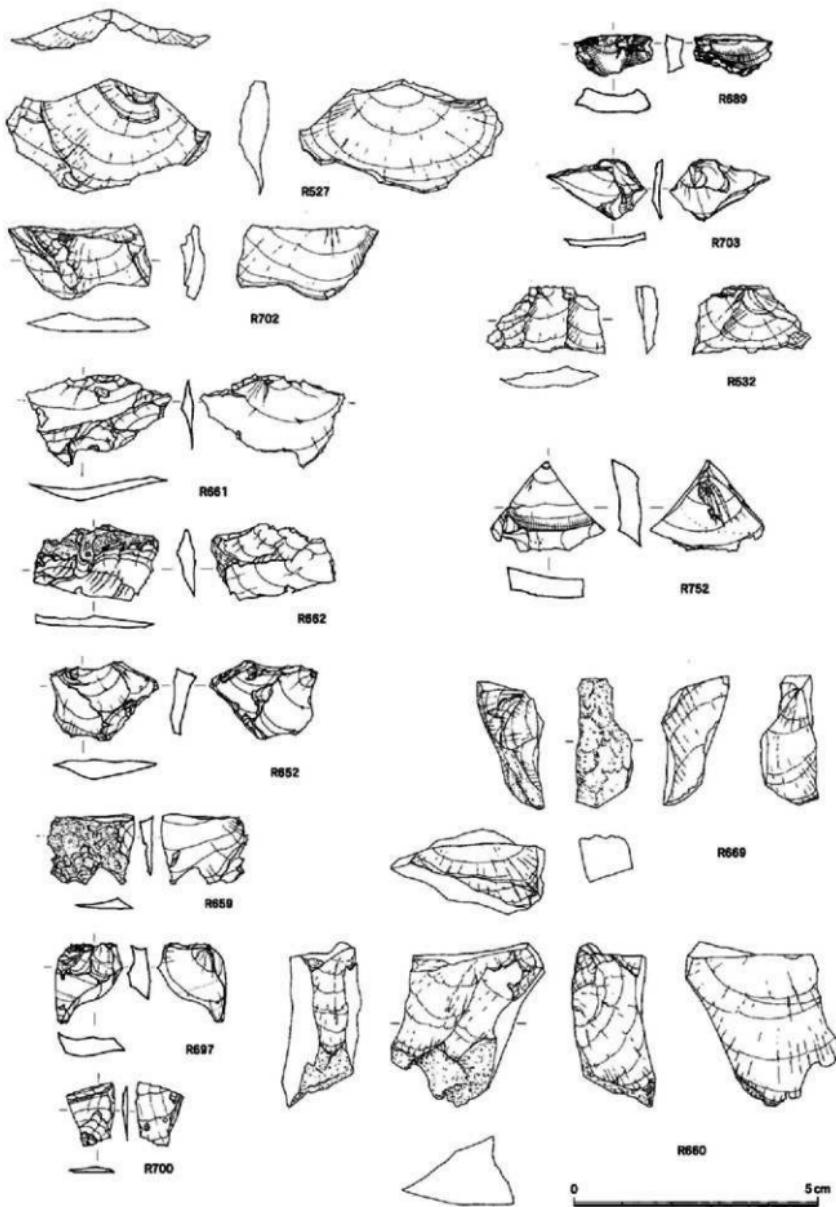


Fig. 9 A群出土石器 2 (1/1)

である。石材は、これらのうち5点が黒曜石であるが、その他の91点はすべて安山岩である。

出土遺物 (Fig. 8・9)

R616は台形石器である。安山岩の薄手の縦長剥片を折断し、両側縁に二次調整を施す。一辺約1.2cmの平面方形に近い小型品である。R521・533・536・541・542・610・618・704は安山岩の縦長剥片である。剥片の先行剥離から打面単設主体で、90度転移例が少数認められる。多くが折断している。R628・631・694は幅広縦長の石核調整剥片である。点状打面で側方から剥離が認められる。R631には自然面が残される。R535・608・647・665は使用痕有剥片である。R608のみ安山岩で、他は黒曜石を素材とする。何れも自然面を残す不定形剥片であり、縁辺に使用痕と見られる微細剥離が認められる。R527・532・652・661・662・689・702・703・752は横長剥片である。R689は黒曜石であり、他は安山岩である。R527・752は稜状の打面、底面を取り込み打点を後退させる先行剥離の存在など「瀬戸内技法」による翼状剥片に類似する特徴をもつが、底面がポジティブ面でないこと、剥離前の打面調整が認められることなどから同技法そのものの存在は認め難い。これは、他の横長剥片にも共通し、多くは石核調整や作業面等調整などに伴う調整剥片の可能性が有る。なおR689は調査時に剥片下縁を欠損してしまし、二次調整については明らかにできない。R659・697・700は不定形剥片であり、すべて安山岩である。R659は背面が自然面であり、石核形成初期の調整剥片であろう。R697・700は作業面等調整などに伴う調整剥片とみられる。R660・669は安山岩の分割砾であり、石核形成や石核再生に伴う大型剥片素材である。

B群 (Fig.10)

調査区南西端のH-20～K-25グリッドにかけて検出した遺物集中部である。付近はほぼ平坦地である。新期ローム層の3層から4層上部で検出された。J・K-22からJ-24にかけて不整形の落ち込みSX-10がみられ、遺物はこの落ち込みSX-10を中心に南北約4m、東西約5mの範囲に集中して出土した。とくに断面見通し図で分かるように、この落ち込み東側の覆土中に集中的に含まれる。遺物はこの落ち込み内に約8割、周辺に約2割が分布する。垂直分布はこの落ち込みのために標高20.3mから21.0mまでの上下約70cmと広い範囲に拡がり、検出面直下に相当する標高20.9mをピークとする正規分布を示す。出土石器は総数220点であり、その内容は台形石器2点、使用痕有剥片8点、石核5点、剥片72点、碎片132点である。石材はこれらのうち3点が安山岩であるが、その他の217点はすべて黒曜石である。なお3点の安山岩はすべて遺物集中部の周縁で出土している。

SX-10 (Fig.11)はJ・K-22からJ-24グリッドに位置する不整形の落ち込みである。遺物集中部B群の調査過程で4層上面で遺物集中部付近で土色の差異に気づき、遺構である可能性を意識して調査を進めた。その結果、不整形な落ち込みSX-10を検出した。平面形は大きく2つの落ち込みが連結した瓢箪形を呈する。東側の落ち込みは南北2.7m、東西1.7mの南側に突出部を有する不整形円形で深さ0.6mとやや深い。西側の落ち込みは東西2.5m、南北1.3mの西側に突出部を有する不整形円形で深さ0.35mである。全体としては主軸をN-80°-Eにとり、長さ4.3m、幅2.6mの規模となる。床面は凹凸が著しい。遺構の基盤は5・6層であり、覆土は3層に対応する褐色粘質土である。断面写真で確認できるように、遺構内面に埴土や炭化物、漸移層などの分布や形成はない。床・底面は明瞭に分層、区分できた (図版2-8)。この落ち込みが風倒木など木根等の自然形成痕跡であるのか、あるいは何らかの人為的遺構であるのかは判断できなかった。なお、B群で確認されたR813とR470、R822とR496の2例の接合資料は、何れも折断した調整剥片である。何れの接合関係もSX10内下部とSX10周辺の接合であり、直線で前者が約2.5m、後者が約1m離れている。遺構内遺物と周辺に広がる遺物が

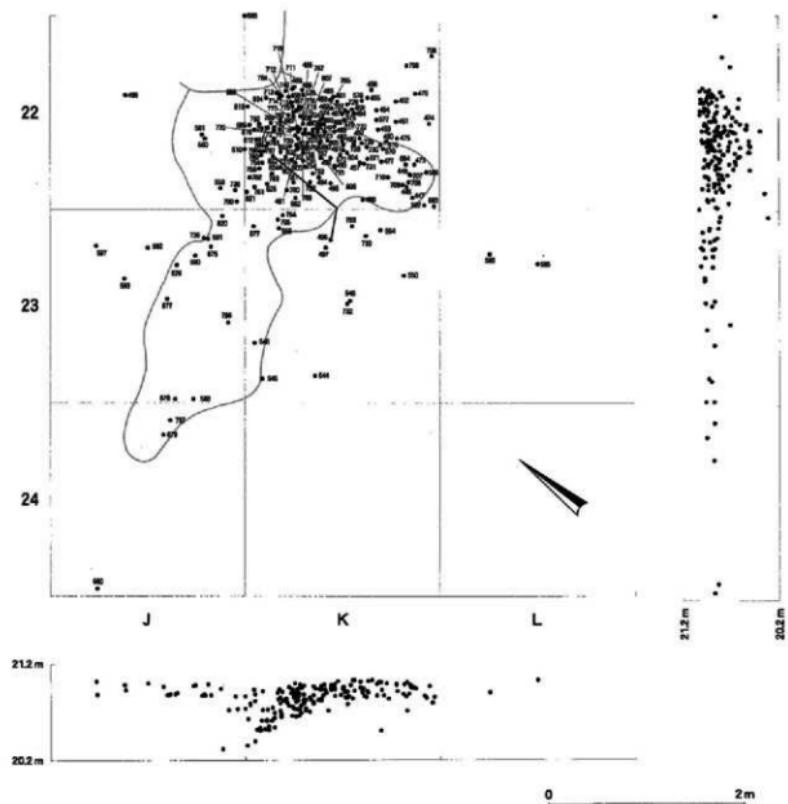


Fig.10 B群遺物分布図 (1/50)

一連の形成であることを示している。

遺物 (Fig.12~18)

R582とR758は黒曜石製の非対称形の台形石器である。R582は幅広の縦長剥片を素材とする。二次調整は剥片基部側を背腹両面から、先端側を腹面からプランティングを行う。また背面頂部は基部側から平坦剥離が入る。R758は幅広の縦長剥片を素材とする。両端を折断し、切端部を僅かに二次調整する。R763はナイフ形石器か角錐状石器の基部破片である。現存長1cmに満たない小破片のために形態などは不明であるが、両側と腹面に二次調整を施し尖らせている。R602・676・677・679・780・789・819は完形の縦長剥片である。平坦打面、単設を基本としている。このうち寸詰まりのR679・780

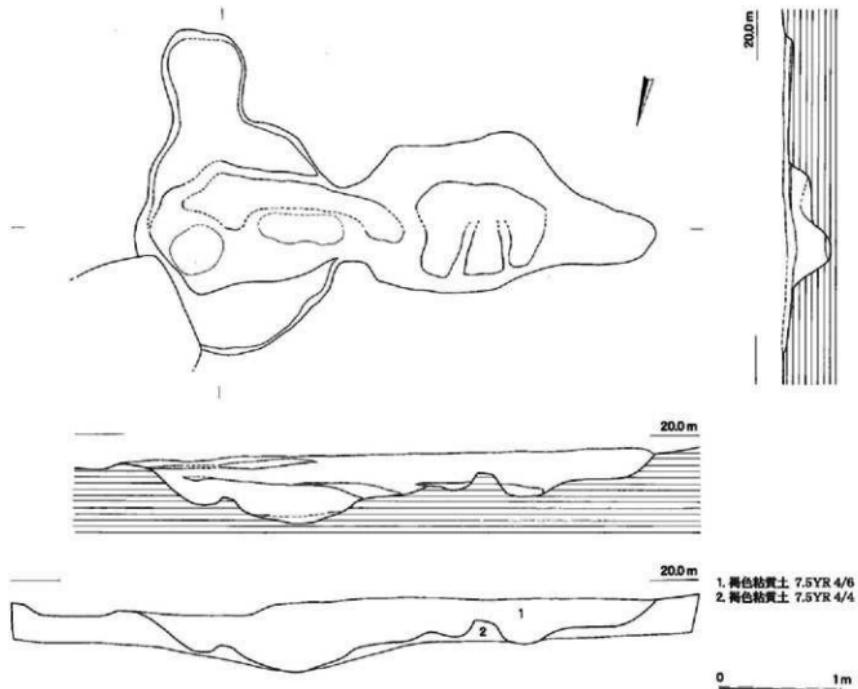


Fig.11 SX-10実測図 (1/40)

を除くと、すべて剥片先端に自然面を残している。またR602・679は使用痕とみられる微細剥離がある。R450・473・680・796・823は縦長剥片の基部破片である。このうちR823は折断面の切端部に僅かな二次調整がある。R494・483・681・736・798は基部と先端部を欠損する縦長剥片である。R556・629は縦長剥片の先端部破片である。R813とR470、R822とR496は接合して完形となった調整剥片である。R765も同様であるが、前二者が作業面調整剥片であるのに対し、765は石核形成初期の調整剥片と見られる。R813とR470は作業面高約6cm、厚さ3cm程度の石核の右側の調整剥片である。側面は非調整で自然面のままであり、先行剥離の階段状剥離の発生に対してより深い剥離で全面的な石核再生を試みたものと考えられる。R822とR496は作業面高約6cm、厚さ4cm程度の石核形成初期の調整剥片である。左側面は本来分割面の可能性があり、さらに底面と作業面側からの調整が施されている。作業面は左側と打面からの調整で形成を始めている。本剥片が第二打の作業面形成の剥離であり、底面に達する開放剥離に成功したものと見られる。R497・674・820は縦長剥片の基部破片である。またR550は基部と先端部を欠損する縦長剥片であり、R588は調整剥離の稜を取り込んだ縦長剥片の先端部破片である。これらの剥片は背面一側辺が自然面であり、石核作業面の調整を兼ねている

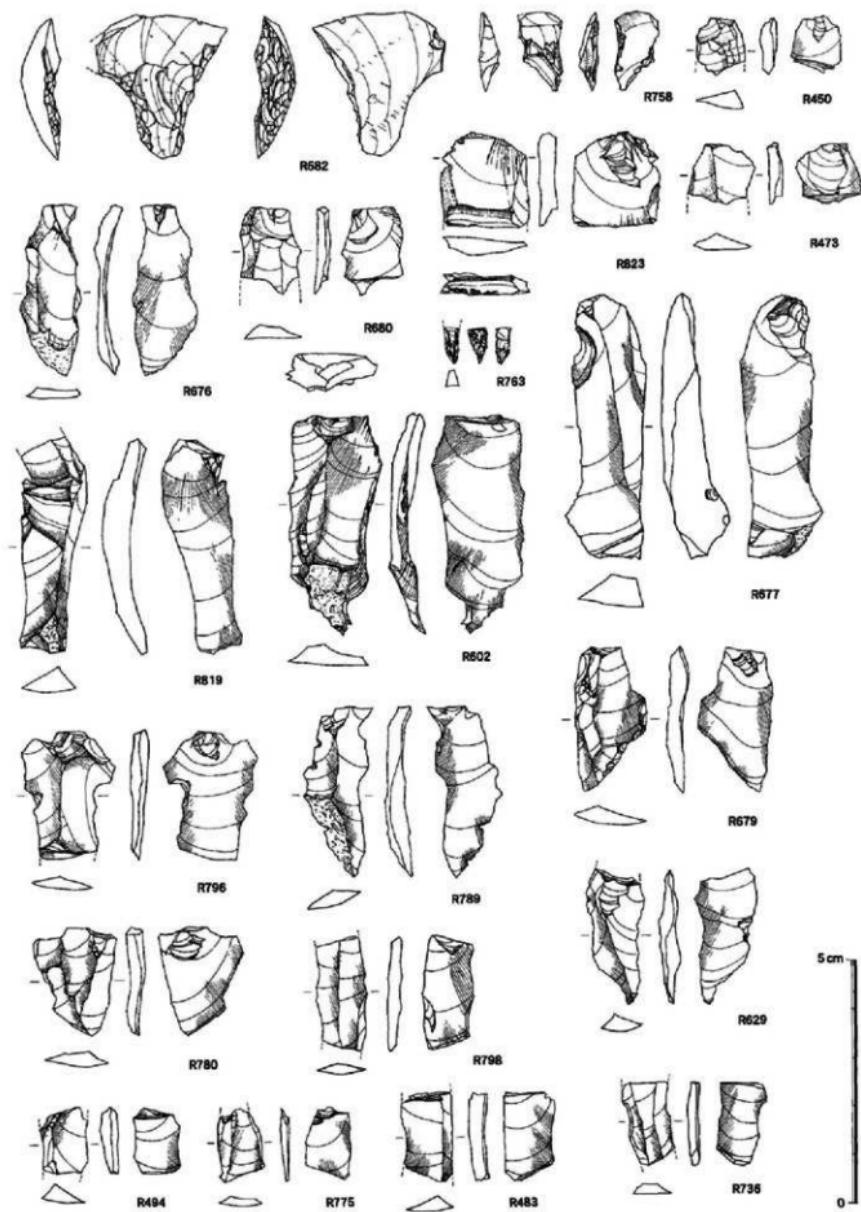


Fig.12 B群出土石器 1 (1/1)

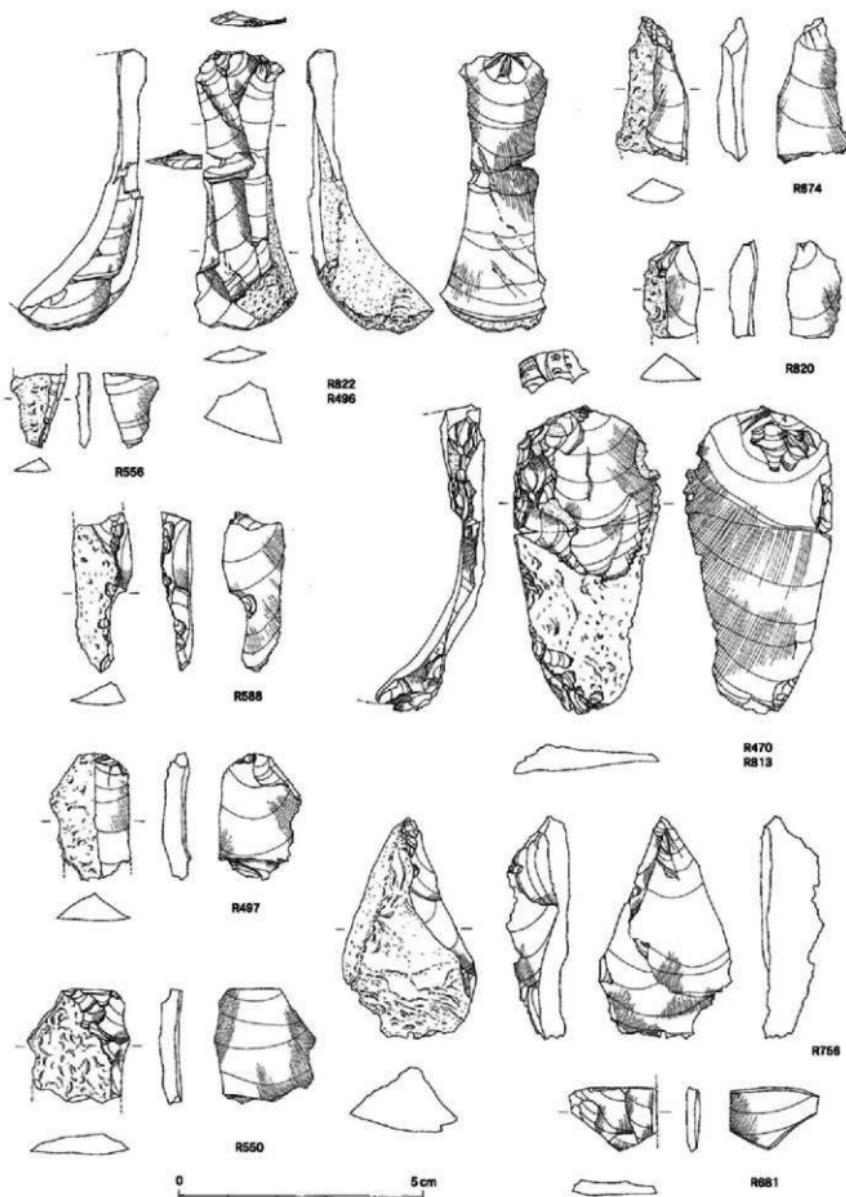


Fig.13 B群出土石器 2 (1/1)

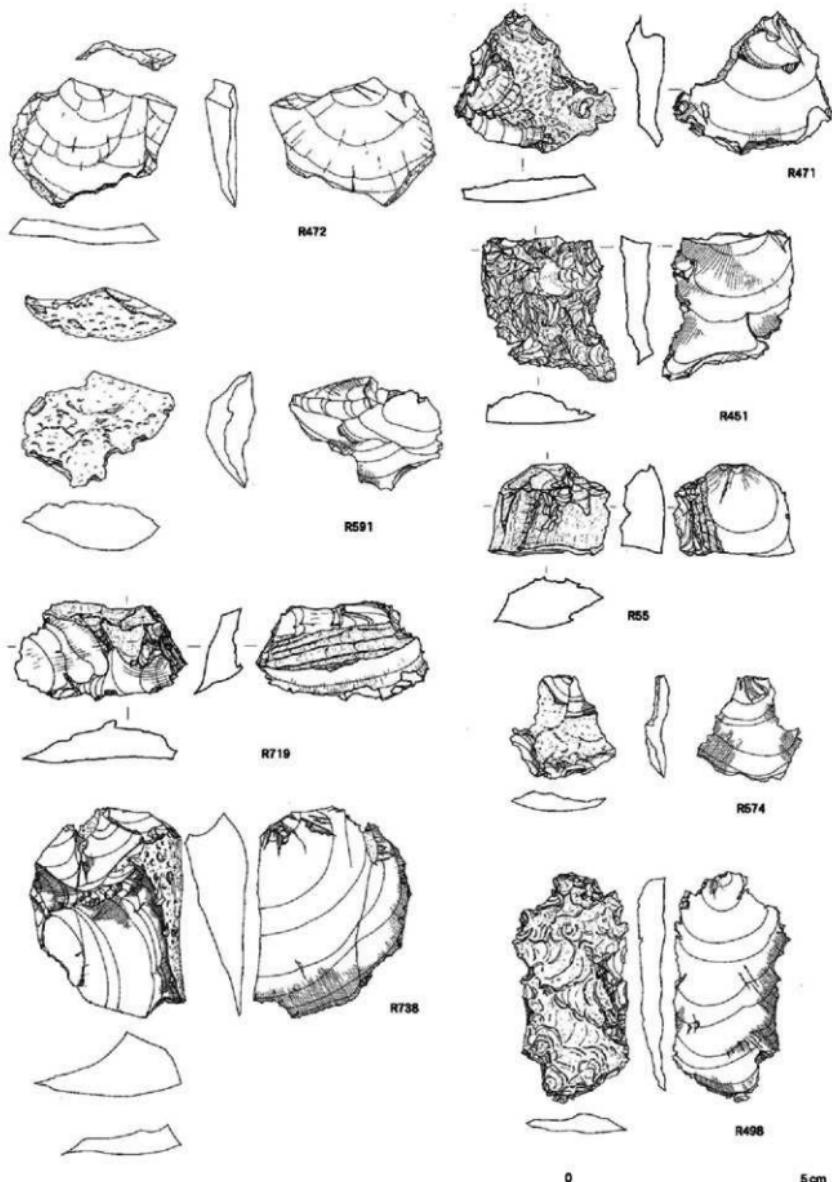


Fig.14 B群出土石器 3 (1/1)

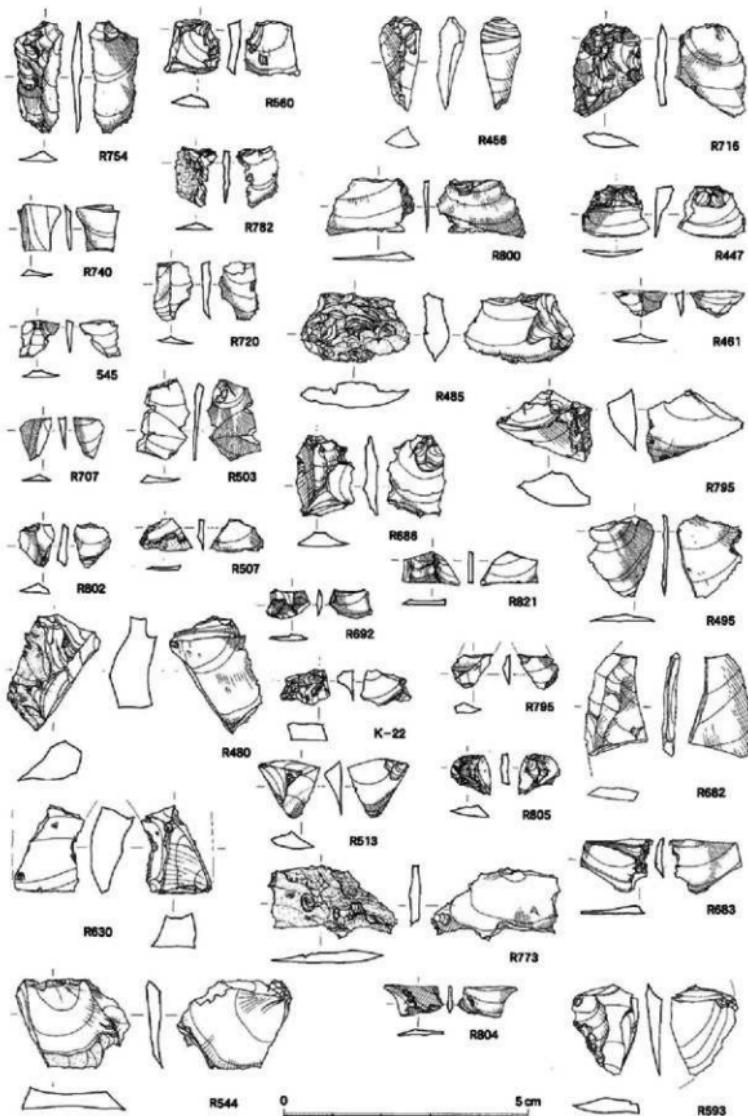


Fig.15 B群出土石器 4 (1/1)

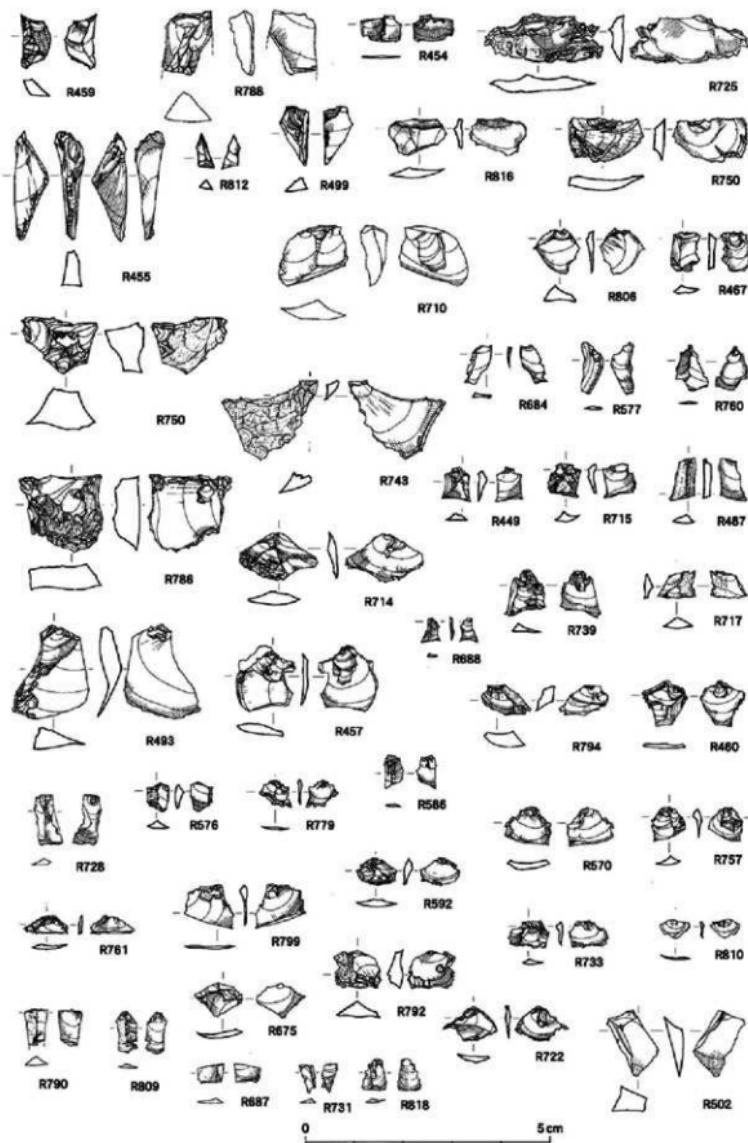


Fig.16 B群出土石器 5 (1/1)

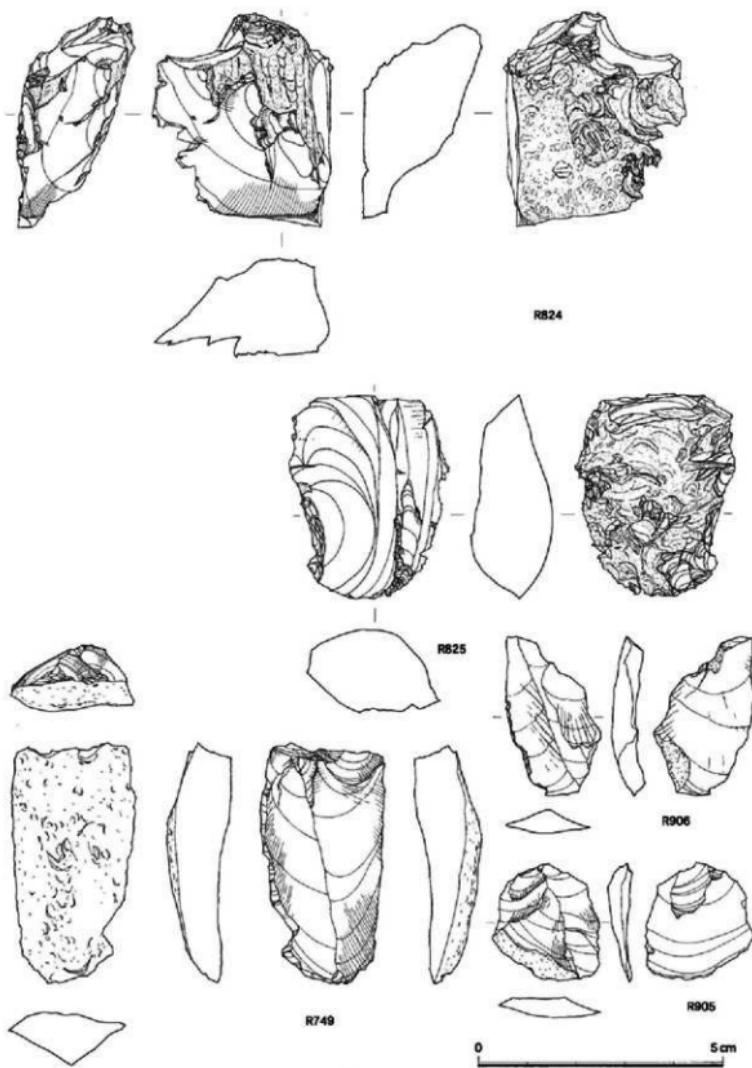


Fig.17 B 群出土石器 6 (1/1)

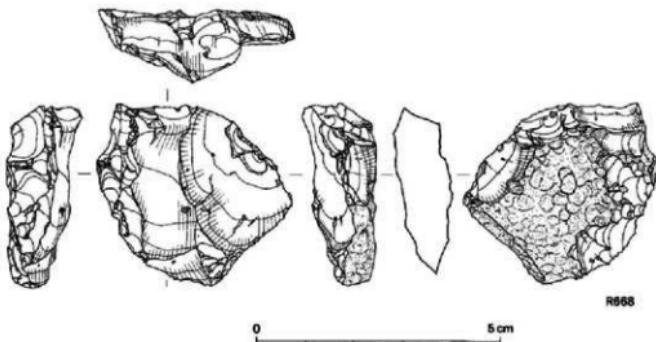


Fig.18 B群出土石器 7 (1/1)

と見られる。R472・493・544・738・905・906はやや大型の不定形剥片である。平坦打面が多く、剥離方向は先行剥離と同軸か約45°振るものがある。R472・738・906に使用痕と見られる微細剥離がある。このうちR472は報告中唯一の安山岩製の剥片である。横長の不定形剥片で下縁に微細剥離がある。ちなみにB群出土の他の安山岩2点は小碎片である。R055・451・471・480・485・498・574・591・719・725・743・773・786は不定形剥片であり、背面構成が自然面を主体とする。このうちR471・574・719などは背面に自然面を除去する球心状の先行剥離が認められる。これらは石核形成や剥片剥離初期の石核調整剥片と見られるものである。R455・502・593・630・682・683は二辺以上に連続した折断面を有する剥片である。主剥離面の状況から折断前の剥片は不定形剥片と見られる。このうちR593・630には二次調整や使用痕状の微細剥離がある。R447・457・495・683・686・710・714・716・750・788・795・800は小型の不定形剥片である。この中には先行剥離と同方向の剥離を有するもの(447・495・683・710・795・800)と、ほぼ直交する剥離を有するもの(457・686・716・750・788)がある。何れも作業面の調整剥片と見られる。R456・461・503・545・707・720・740・754は小型の縦長剥片やその断片である。ただし背面の稜は一条で断面三角形であり、連続剥離とは考え難い。剥片剥離前の作業面調整時の稜部削片と考えられよう。R022・449・460・487・507・715・717・782・790・792・794・809は背面に自然面を有する碎片である。主に石核調整時の碎片と見られる。R467・576・586・687・688・728・731・818は小型の縦長碎片である。一見すると細石刃と判断しかねないが、背面の稜が一条であり、形態にも規格性は乏しい。剥片剥離前の作業面調整時の稜部碎片と考えられよう。R570・592・722・733・761・779・799・810は横長の碎片であり、左右に同程度とより小さな剥離が繰り返し行われることや、打角が70°以下の例も多いことなどから、石器製作時の二次的な調整剥片とみられる。これにはいわゆる「プランティング・チップ」も含まれる。R454・459・499・577・684・739・757・760・806・812・816は不定形の碎片である。石核調整から石器製作に至る過程で廃出された碎片と見られるが、その区分は困難であった。R749・824・825は分割礫もしくは板状素材である。直径10cm以下の黒曜石円錐原石からの荒割段階のものである。R668は黒曜石の縦長剥片石核である。裏面に自然面を残す。亜角礫を素材とし、打面設定後、左側辺からの石核調整を施し、その後剥片剥離作業を行っている。裏面からの石核調整は作業面側と裏面側に行っている。

打面は平坦であり、幅広の縦長剥片を剥出している。最終剥離は作業面右側を大きく失う不定形剥片の削出である。

C群 (Fig.19)

調査区中央部、L-12～J-16グリッドにかけての南北約3m、東西約9mの範囲に散漫に分布する。垂直分布は20.5mから20.9mの上下40cmに及ぶが、付近は東に向かって下がる緩い傾斜地であり、出土レベルも全体として地形傾斜に沿って東に向かって下がっている。出土層は緻密ではないが、新期ローム層の3層から4層上部の間で検出された。出土石器は24点であり、その内容はナイフ形石器1点、台形様石器1点、台形石器2点、削器1点、使用痕有剥片1点、石核1点、剥片6点、碎片10点である。石材は18点が黒曜石、4点が安山岩、2点が頁岩、1点が玄武岩である。分布上では中央部の2m×4mの範囲にナイフ形石器、台形石器などの主要石器が集中している。

遺物 (Fig.20・21)

R1は安山岩の横長剥片を素材とするナイフ形石器である。基部を欠損する。素材剥片の背面には底面があり、先行する横長剥片剥離が認められるが、本剥片剥離方向とは180°異なる。連続的な剥離作業の最終段階で打点を180°転移して剥離したものか、当初から板状素材の周囲から任意に横長剥片を剥出するものであったと考えられる。少なくとも「漸戸内技法」などの連続的な横剥ぎ技法による剥出とは考え難い。プランティングは二側縁にあり、剥片打面側である左側縁全体と右側縁基部側に施される。R3は黒曜石の横長剥片を素材とする台形様石器である。完形品であり、先端の刃縁に微細剥離がある。素材剥片の背面には先行剥離と自然面がある。その剥離方向は共通するが、先行二剥離の中央を打点としている。そのため中央を最大厚とする剥片となっている。プランティングは両側縁に入念に施されている。R274は黒曜石の縦長剥片を素材とする台形石器である。背面には先行剥離と自然面がある。剥片打点側にあたる右側縁には調整があるが、左側縁と下縁部は折断面であるが、形態から欠損でなく加工とみられる。稜側の調整は緩いカーブを描き、「百花台型台形石器」との近縁性を伺わせる。R4は黒曜石の台形石器である。素材剥片の形態は不明であるが、幅広の縦長剥片もしくは縦長の不定形剥片と考えられる。剥片の打点側と先端側に二次調整を施し、逆台形に仕上げている。先端の刃部は表裏両面に及ぶ小剥離が見られ、石器としての二次調整の可能性もあるが、腹面の剥離には衝撃剥離と見られる裁断状の階段状剥離があり、使用痕も含まれていると見られる。R431は黒曜石の縦長剥片を素材とする削器である。刃部である右側縁背面は調査時に大きく傷つけてしまい二次調整を失ってしまったが、腹面に二次調整並びに使用痕と見られる微細剥離がある。R6は黒曜石製の不定形剥片を素材とする使用痕有剥片である。下縁に微細剥離が認められる。R632は黒曜石の不定形剥片である。R423は黒曜石の縦長剥片である。R23・267・290・419は黒曜石の小型の不定形剥片である。R290は背面が自然面であり、石核形成時の調整剥片と見られる。R645は安山岩の不定形剥片であり、背面が自然面であることから、石核形成時の調整剥片と見られる。R432は黒曜石の石核である。背面の一部に自然面を残すが、裏面、側面に石核調整が入念に施される。最終剥離で作業面の大半が失われるが、その後に作業面調整が入念に行われている。なお打面に調整はなく平坦打面である。R437は玄武岩かと思われる火成岩円礫の破片である。本來長軸5～6cm程度の扁平な円礫と推定できること、外表に敲打状の打痕が認められることなどから、石器製作に関わる敲石の表皮部の剥落片と考えられる。

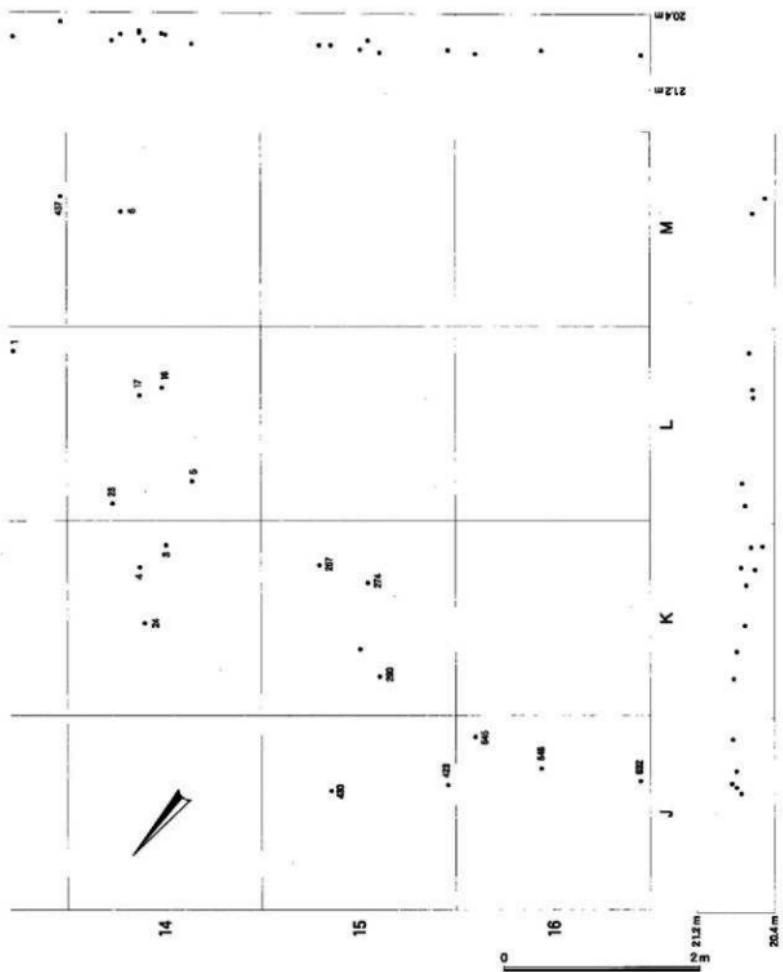


Fig.19 C群遺物分布図 (1/50)

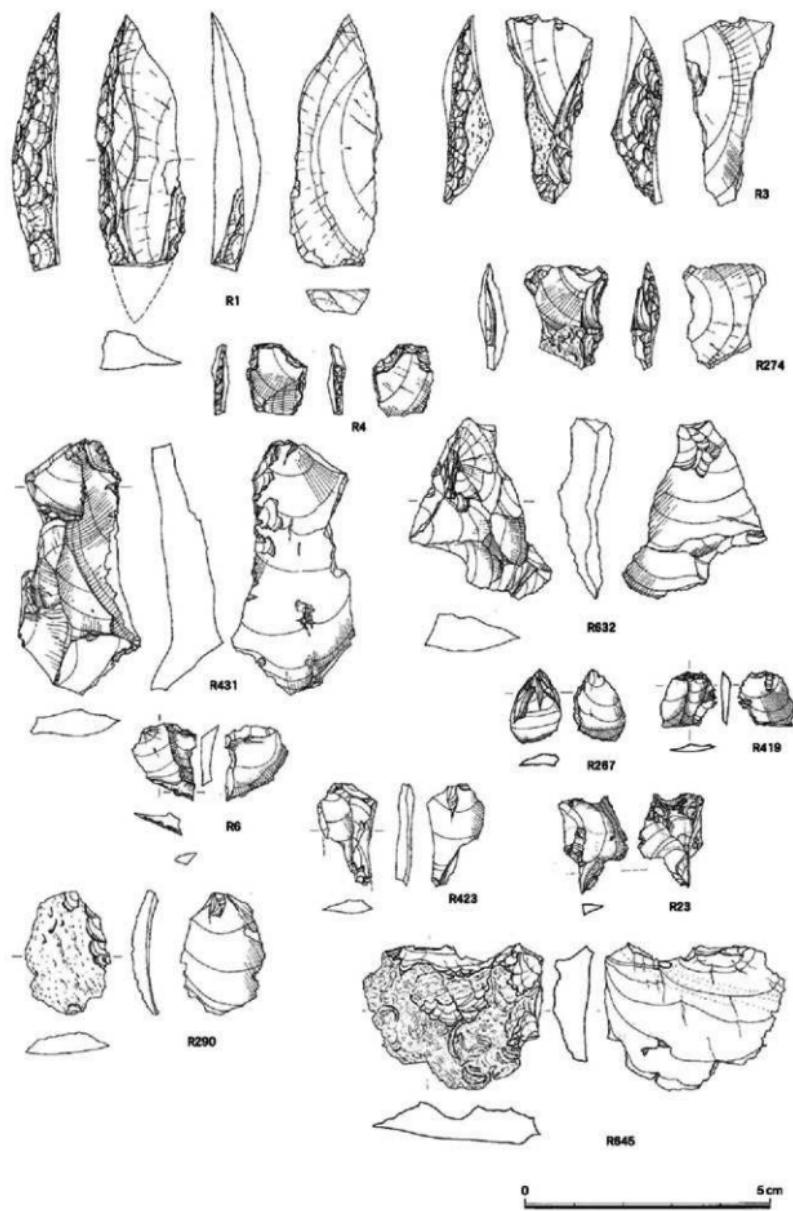


Fig.20 C群出土石器 1 (1/1)

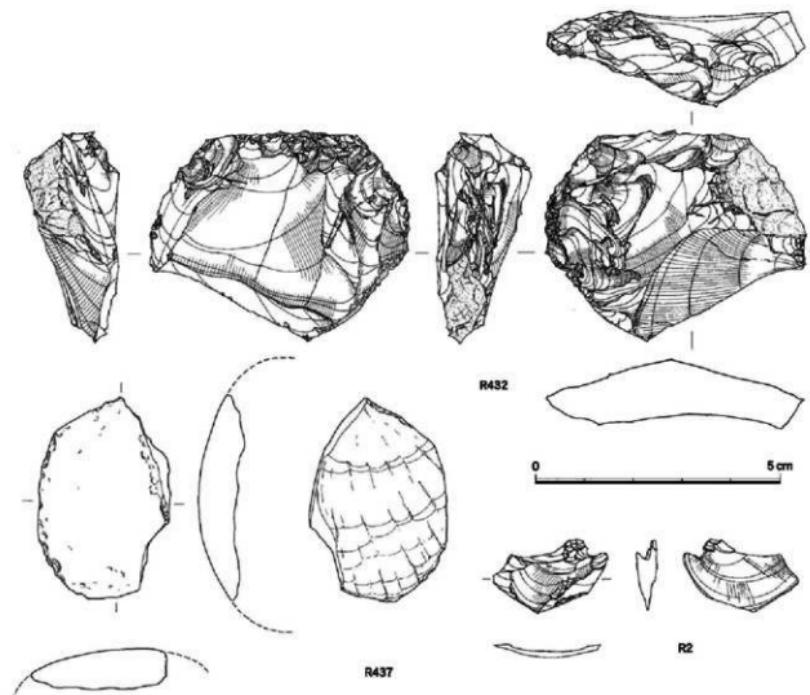


Fig.21 C群出土石器2及びその他の出土石器(1/1)

D群(附図)

調査区南西側の $2 \times 2\text{ m}$ のグリッド調査で僅かに遺物が検出できたため、周囲を $6 \times 4\text{ m}$ まで拡張して調査を行った。しかしそれ以上の出土遺物がなかったため4層下部まで掘り下げ調査を中止した。遺物集中部とは言い難いが、報告の便宜的に仮称しておく。遺物出土はF-17、E-18グリッドにかけて分布する。これらはA群の北西側約8mにある。新期ローム層中の3層中で検出した。丘陵縁辺に近いがほぼ平坦地である。出土石器は2点でその内容は剥片、碎片が各1点。石材は黒曜石と安山岩である。2点は2.7m離れているが、検出標高はほぼ20.88mで一致する。

E群(附図)

調査区中央西側にあたり、 $2 \times 2\text{ m}$ のグリッド調査で僅かに遺物が検出できたため、周囲を $4 \times 4\text{ m}$ まで拡張して調査を行った。その結果、さらに数点の遺物が出土した。C群の北側約4mのG-11～H-12グリッドにかけて分布する。垂直分布は20.49mから20.63mの上下14cmの範囲である。付近はC群と同様に東に向かって下がる緩い傾斜地であり、出土レベルも全体として地形傾斜に沿って東に向

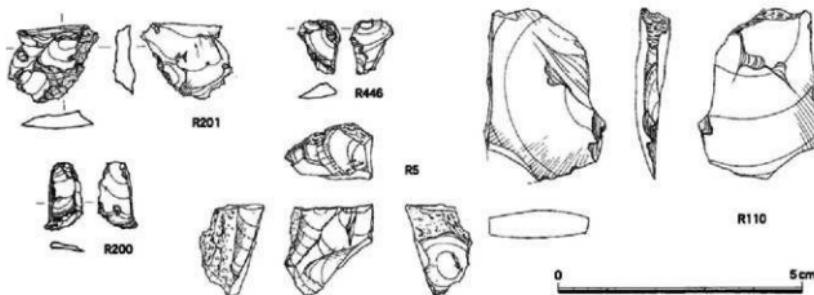


Fig.22 その他の出土石器 (1/1)

かって下がっている。出土層は新期ローム層の3層中で検出された。出土石器は6点でその内容は剥片1点、碎片5点である。石材はすべて黒曜石である。

遺物 (Fig.22)

R201は不定形剥片である。先端部破片である。背面に自然面が残り、表皮除去の小剥離が多く認められる。石核調整剥片か剥片剥離初期の剥片の破片と考えられる。R200は小型縦長の碎片である。先行する剥離も同一方向の小剥離であり、作業面調整に伴う碎片と考えられる。

F群 (附図)

調査区北側にあたり、 2×2 mのグリッド調査で僅かに遺物が検出できたため、周囲を 4×13 mまで拡張して調査を行った。その結果、さらに数点の遺物が出土した。C群の北側約10mに位置し、G-6～K-7グリッドにかけて分布する。付近はC群から東に向かって下がる傾斜地の途中であり、本分布域付近が傾斜変換点となり、これより東側にはさらに傾斜が急となる。出土レベルは全体として地形傾斜に沿って東に向かって下がる。出土層は新期ローム層の3層中で検出された。出土石器は9点でその内容は使用痕有剥片2点、剥片1点、石核1点、碎片5点である。石材は黒曜石6点、安山岩2点である。

遺物 (Fig.22)

R2は黒曜石製の不定形剥片を素材とする使用痕有剥片である。下縁に微細剥離が認められる。R110は黒曜石の不定形剥片である。剥片先端を調査時に欠損する。剥片は自然面打面であり、表腹共にボディティブ面で構成される。これは円錐の分割素材のボディティブ面を底面として最初に剥離された剥片である。剥片下縁部は刃縁を残し、微細剥離が認められる。また両側部は折断面であり、右側の一部に二次調整かと思われる小剥離が入る。あるいは下縁を刃部として、折断調整で台形様石器として製作されたことも考えられる。R5は黒曜石の小石核である。側面、背面に自然面を残し、打面設定後、打面・作業面調整なしで剥片剥離を行っている。下端は同心円リングであり、熱剥離状の剥離面である。R446は不定形の小剥片であり、作業面調整剥片とも考えられる。

4. まとめ

南八幡遺跡12次調査では弥生時代後期の集落の一部と後期旧石器時代の石器群を明らかにできた。弥生時代は集落の縁辺であり今後の周辺調査に期待したい。旧石器時代の石器群は6群の集中分布を明らかにできた。なお整理報告の時間が不足し、石器群間・石器群ごとの個体別資料や接合関係の分析は十分にできなかった。今後の課題としたい。6群のうちA～C群は一定量の組成をもち定型石器を含むが、D～F群は少量で定型石器をもたない。またA～C群はそれぞれ著しく異なる様相をもつ(Fig.23)。A群は安山岩が95%を占め、少量の黒曜石を伴う福岡平野では特異な石材組成の石器群である。B群は逆にほぼ99%が黒曜石である。A・B群間に接合資料はないが、共に剥片・碎片に対し石器類が5%と少なく、石器製作主体の石器群と言える。これらに対しC群は石器総数は少ないが、石材が多種で、石器類も3割近い比率である。C群内での接合資料が多く、搬入品主体で構成される福岡平野で一般的なあり方を示す。これらの石器群の編年的位置付けは、定型石器が少ない点から容易でない。何れも小型の台形石器を含むことからAT降灰以降である。出土層位は一部斜面にかかり標高での比較は困難であるが、何れも3層中にピークをもつ近期とみられる。ただし近い距離に分布しながら相互に接合資料がなく同時存在は考え難い。B群の台形石器は「原ノ辻型」の影響が想定される。C群の横長剥片の二側縦調整ナイフが「瀬戸内技法」導入後の2段階以降であり、市内では三苦遺跡5次C1群と関連する。A～C群は後期旧石器時代後半期第3段階に位置付けられ、周辺では雑駒隈遺跡14次石器群以降で麦野遺跡B3次石器群以前に位置付けられよう。

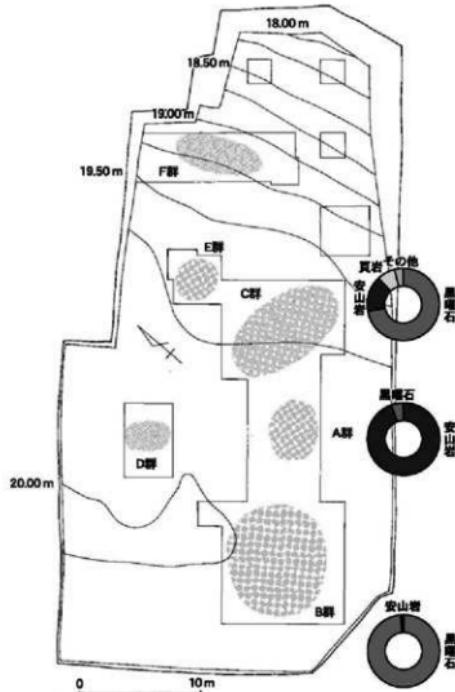


Fig.23 集中分布位置と石材組成 (1/400)

表1

	黒曜石	安山岩	真岩	その他	合計
A	5	91	0	0	96
B	217	3	0	0	220
C	18	4	2	1	25
D	1	1	0	0	2
E	6	0	0	0	6
F	6	2	0	0	8
合計	253	101	2	1	357

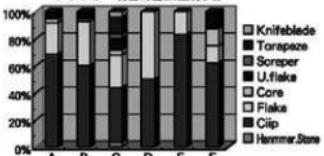
組成 グラフ1 石器群別石材組成



表2

	Knifeblade	Torapaze	Scraper	U.Flake	Core	Flake	Clip	Hammer.Stone	合計
A	0	1	0	4	3	22	65	0	96
B	1	2	0	8	5	72	132	0	220
C	1	3	1	2	1	6	10	1	25
D	0	0	0	0	0	1	1	0	2
E	0	0	0	0	0	1	5	0	6
F	0	0	0	1	1	1	5	0	8
合計	21	6	1	15	10	193	219	0	1357

グラフ2 石器群別器種組成 (%)





(1) 調査区北半区全景（南から）



(2) 調査区南半区全景（南から）

図版 2



(1) 西壁土層（北側）



(2) 西壁土層（南側）



(3) SC-3（南から）



(4) 調査区北半区旧石器分布状況（南から）



(5) A群遺物分布状況（東から）



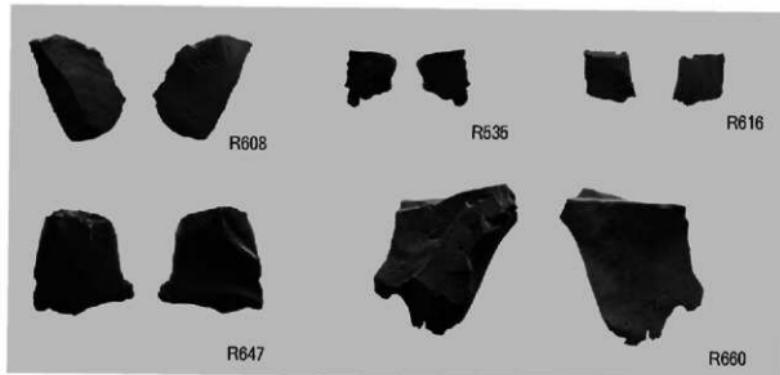
(6) B群遺物分布状況（東から）



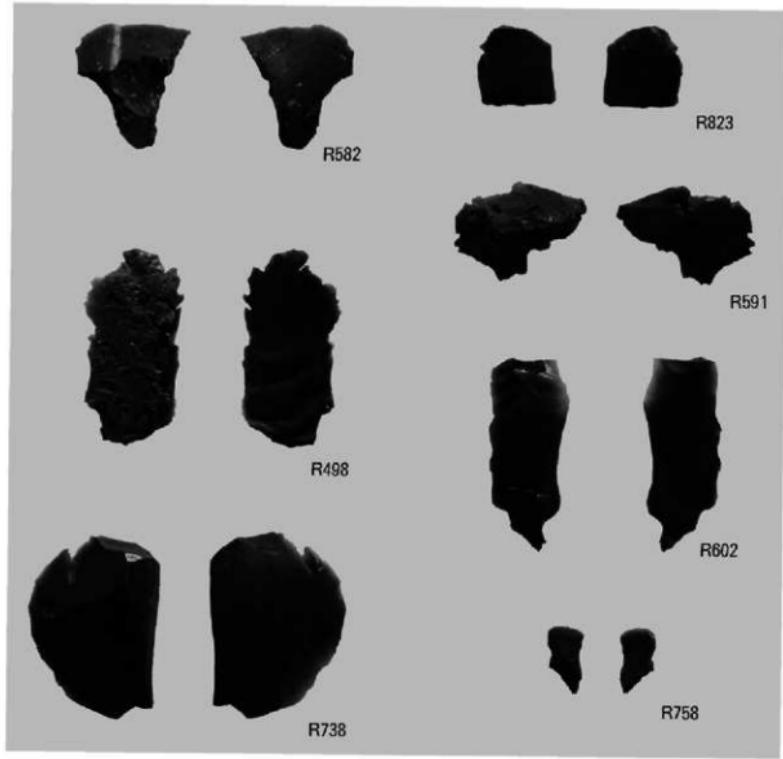
(7) C群遺物分布状況（東から）



(8) SX-10（北から）

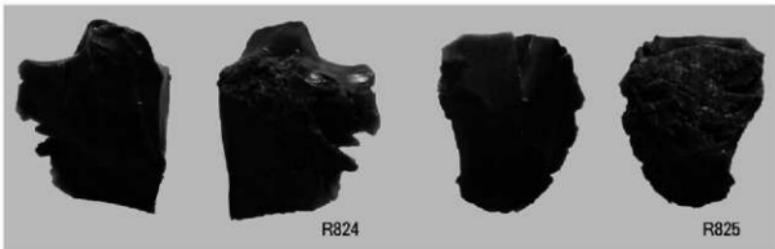


A群出土石器

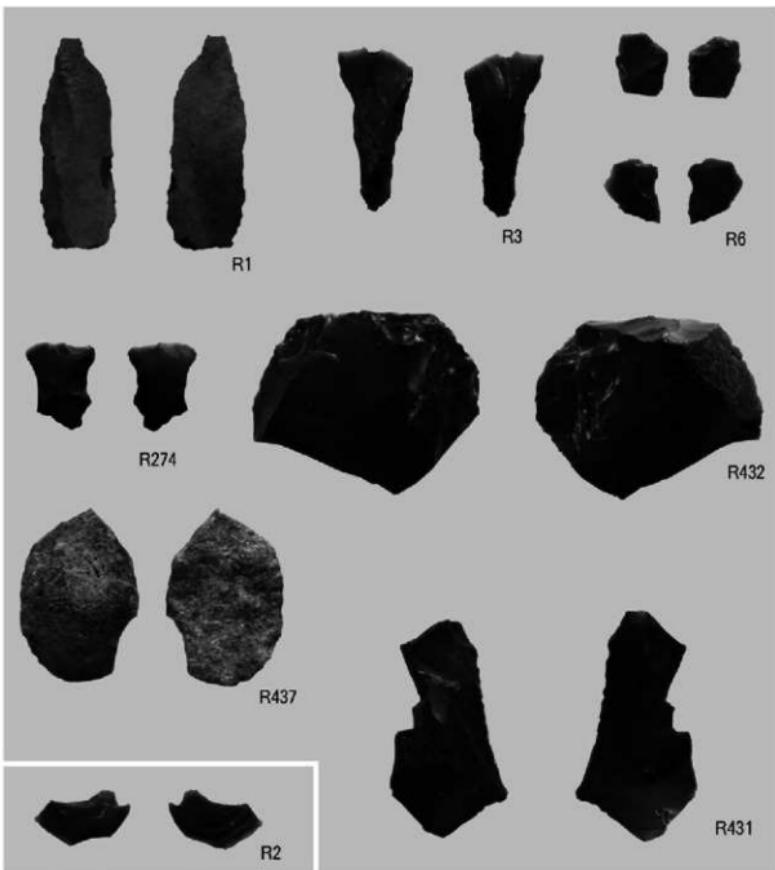


B群出土石器

図版 4

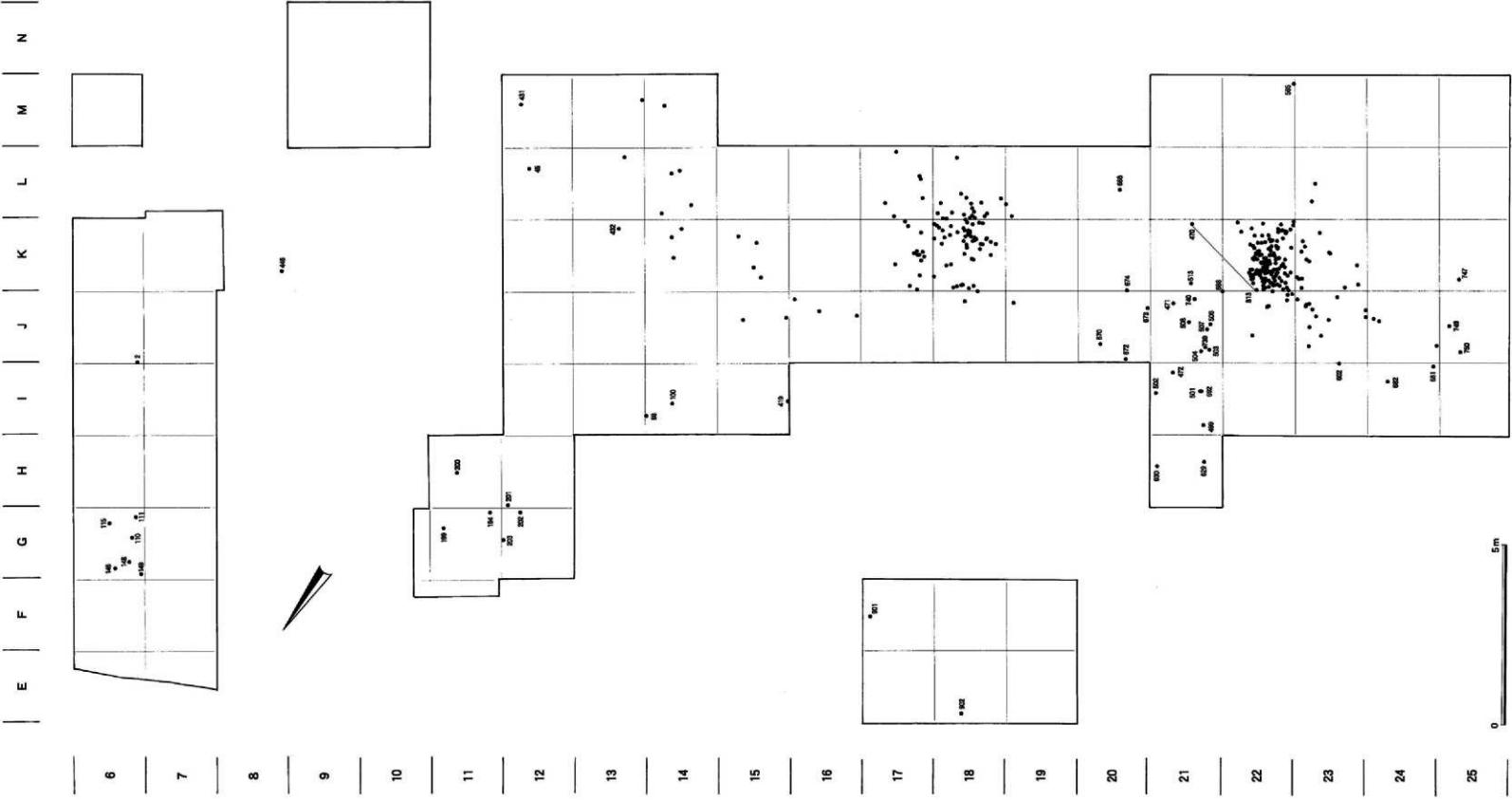


B群出土石器



F群出土石器

C群出土石器



付图 南八幡遺跡旧石器時代遺物分布図 (1/100)

南八幡跡地第12次調査旧石器時代遺物一覧表

※位置はE25北西隅を基準とする

番号 (R)	場所 (m)	南北(m) (m)	東西(m) (m)	標高 (m)	種類	石材	重量 (g)	クリップ 数	検出番号
1 C#1	17.75	24.55	20.66	チヤブ原	An	7.11	L : 13	Fip.20	
2 F#1	12.04	26.18	16.97	U.Flake	Ob	0.48	J : 5	Fip.20	
3 C#1	18.07	22.95	20.53	御所野原	Ob	4.16	K : 14	Fip.20	
4 C#1	18.07	22.95	20.53	御所野原	Ob	4.16	K : 14	Fip.20	
5 F#1	18.41	22.71	20.73	土	Ob	3.47	J : 5	Fip.22	
6 C#1	19.18	22.44	20.63	U.Flake	Ob	0.81	M : 14	Fip.20	
7 C#1	17.07	23.02	20.23	Ctisa	An	0.81	H : 12	L : 14	
8 C#1	17.29	23.25	20.61	Ctisa	Ob	0.26	L : 14		
9 C#1	18.18	23.53	20.98	ノタ?	Ob	0.63	L : 14	Fip.20	
10 C#1	18.18	23.53	20.98	ノタ?	Ob	0.29	K : 14	Fip.20	
11 C#1	17.43	23.30	20.58	土	Ob	0.29	K : 14	Fip.20	
12 C#1	18.07	23.97	20.63	御所野原	Ob	0.71	I : 14	Fip.20	
13 C#1	18.07	23.25	20.64	Ctisa	Ob	0.82	I : 14	Fip.20	
14 F#1	7.17	38.35	20.22	片打	Ob	5.84	M : 5	Fip.22	
15 F#1	7.07	38.35	20.26	片打	Ob	0.81	O : 6	Fip.22	
16 F#1	7.07	38.35	20.26	片打	Ob	0.59	O : 6	Fip.22	
17 F#1	5.88	38.42	20.23	片打	Ob	0.62	G : 6	Fip.22	
18 F#1	5.86	38.42	20.23	片打	Ob	0.62	G : 6	Fip.22	
19 F#1	5.86	38.42	20.23	片打	Ob	0.91	G : 6	Fip.22	
20 F#1	7.06	38.11	20.14	片打	Ob	0.91	G : 6	Fip.22	
21 F#1	7.06	38.22	20.28	片打	Ob	0.96	G : 11	Fip.22	
22 E#1	7.66	28.62	20.02	Ctisa	Ob	0.36	G : 11		
23 E#1	8.88	28.24	20.48	Ctisa	Ob	0.16	H : 11	Fip.22	
24 E#1	27.72	22.52	20.92	Flake	Ob	1.18	J : 12	Fip.22	
25 E#1	27.72	22.52	20.92	Flake	Ob	0.63	J : 12	Fip.22	
26 E#1	27.72	22.52	20.92	Flake	Ob	0.63	J : 12	Fip.22	
27 E#1	27.95	22.57	20.92	Flake	Ob	0.66	G : 12	Fip.22	
28 C#1	13.44	21.4	20.28	土	Ob	0.28	K : 15	Fip.20	
29 C#1	13.36	20.6	20.87	土	Ob	1.45	K : 15	Fip.20	
30 C#1	14.4	26.78	20.18	片打	Ob	1.88	K : 15	Fip.20	
31 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
32 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
33 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
34 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
35 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
36 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
37 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
38 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
39 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
40 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
41 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
42 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
43 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
44 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
45 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
46 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
47 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
48 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
49 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
50 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
51 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
52 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
53 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
54 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
55 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
56 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
57 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
58 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
59 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
60 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
61 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
62 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
63 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
64 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
65 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
66 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
67 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
68 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
69 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
70 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
71 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
72 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
73 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
74 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
75 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
76 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
77 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
78 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
79 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
80 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
81 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
82 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
83 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
84 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
85 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
86 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
87 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
88 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
89 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
90 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
91 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
92 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
93 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
94 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
95 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
96 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
97 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
98 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
99 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
100 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
101 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
102 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
103 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
104 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
105 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
106 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
107 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
108 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
109 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
110 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
111 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
112 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
113 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
114 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
115 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
116 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
117 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
118 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
119 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
120 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
121 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
122 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
123 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
124 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
125 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
126 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
127 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
128 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
129 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
130 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
131 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
132 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
133 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
134 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22	I : 15	Fip.20	
135 C#1	13.07	20.04	20.96	Ctisa	Ob	0.22			

報告書抄録

ふりがな	みなみはちまんいせき							
書名	南八幡遺跡7							
副書名	南八幡遺跡第12次調査報告							
卷次								
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第906集							
編著者名	吉留秀敏 中村啓太郎							
編集機関	福岡市教育委員会							
所在地	〒810-8621 福岡市中央区天神1丁目8番1号							
発行年月日	2006年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'."	東経 °'."	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
南八幡遺跡12次	福岡市博多区 寿町3-28-1	市町村 40132	遺跡番号 020051	33° 32' 37"	130° 27' 41"	20040401 ~ 20040615	1,253	共同住宅 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
南八幡遺跡12次	集落	旧石器 弥生	遺物集中部 堅穴住居	ナイフ形石器 台形石器 台形様石器 ハンマーストーン 石核 弥生土器				

みなみはちまん 南八幡遺跡7

—南八幡遺跡第12次調査報告—
福岡市埋蔵文化財調査報告書第906集

2006年(平成18年)3月31日
発行 福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1-8-1
印刷 株式会社 川島弘文社
福岡市東区箱崎ふ頭6-6-41